
ユウ

RIA

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ユウ

【Nコード】

N3821D

【作者名】

RIA

【あらすじ】

事故で死んだ男が蘇った。別な男の体を借りて

プロローグ（前書き）

初めまして、RIAと申します

初めて書いた小説ですので、いたらない所もありますが、暖かく見守ってください。

ブローグ

俺 みよつじゆう 明神悠 はどこにでもいる、ただの凡人だった。

一人っ子で、父親はサラリーマン、母親は主婦 金持ちでもないが、貧乏でもない家に生まれた。

成績、下の上、 顔、中の下、 運動神経、あんまよくない、 性格、悪くないけど良くもない。

これは友達ダチが『臍^{ダチ}履めに』見て言ったこと。

年齢〓彼女いない暦、好きな人がいても告白する勇気がない。

将来の夢とか、希望とか、ぜんぜん持っていない、ちょびっとヒッキ―気味。

欲しい物なんて何一つ持っていないかった。

なんとなく毎日を生きて、これからもそうやって生きていく、

それが普通なんだって

そう思ってた。

あの日までは

あの日、俺はチャリで友達^{ダチ}と6人で買い物に行ってた。

多分、受験を控えていたから、友達とつるむのもこれが最後だと思
ってた。

普通の買い物だった。

買い終わって、帰り道、

「これからどうする？」

「うーん」

友達^{ダチ}とそんな会話しながら、曲がり角曲がったら

俺たちの目の前にトラックが衝突しようとしていた。

運転手が寝ていて、スピードが落ちないこと悟ると、

「危ないー!!」

ドンー!!

気づくと、俺は友達を突き飛ばしていた。

グシャ

目の前が、

真っ白になった。

俺は友達かばって、

居眠り運転のトラックに轢かれて

死んだ

死んだはずだった。

だけど面識もなかったソイツが

木村きむらタと言いう名前の男のおかげで、

生き返った。

ソイツはいきなり俺の夢の中に現れた。

とてつもなく美形な、男の俺でも惚れちまいそうな（別にそっちも気はないが）パーフェクトな格好良さだった。

ソイツは俺にこういった。

「ボクは生きるのに疲れた。

だからこの体、君にアゲルよ。

君はこれから木村タとして

生きていくんだ。

頑張ってね。」

その男は俺の返事も聞かず、どこかにいっちまった。

次の瞬間、俺の目の前には、

病院の天井が見えた。

俺はどうやらその男の体に憑依してしまったようだ。

さらにその男の周りには

いや、これは後のお楽しみにしておこう。

この物語は

俺こと、明神悠が木村タという

まったく別な男になってしまった物語。

そんな物語。

始まり（前書き）

大変長らくお待たせいたしました

ご覧ください

始まり

俺が目を開けると、真っ白な天井が見えた。

「ここは どこだ ?」

すると、近くにいた看護師が歓声をあげる。

それを見て俺はここが病室だと知った。

それも驚いたが次の言葉にさらに驚かされた

「Doctor! Boy is revival!!」

(先生、少年が蘇生しました、か)

納得しそうになった が

(ちょっと待てよ なんで理解できてんだ?俺はそんな頭よくないぞ)

「ユウ!!」

そう叫んで病室に入ってきたのは見知らぬ女性。

まるでモデルのようなプロポーションに端正な顔立ち。

長い黒髪は腰までかかる、きれいな髪。

らしい。

そしてこの女性は木村尋菜という名前で、木村夕の母親ということらしい。

つまり、俺は見ず知らずの人間に乗り移ったみたいだ。

理由は謎、解決方法も謎。

とりあえず、周りは部分的な記憶喪失だと思っているようだ。

それに、どうやら脳みその質は木村夕のままであるようで、前なら絶対答えられないような難解な数式なんかも解くことが出来た。

そのおかげで「普通に生活させてみる」という措置がとられた。

明日から俺は木村家で生活することになった。

その日の夜

「おい」

いきなり何かに話しかけられた。

「何か、は酷いだろ？」

目を開けるとそこには

「体の持ち主に、さ」

今の俺、つまり 木村タがいた。

「どう？その体は不都合なところはある？」

「不都合だらけだよ。まずなんでこうなったか説明しろ」

「ま、そのうちにね。大丈夫だよ、心配しなくても」

そう言っただけだ。

「心配に 決まってるだろ」

こうして、俺の、木村タとしての生活がスタートした。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3821d/>

ユウ

2011年1月16日09時34分発行